



平成 25 年 2 月 22 日

各 位

会社名 株式会社神戸製鋼所
(URL <http://www.kobelco.co.jp>)
代表者名 代表取締役社長 佐藤 廣士
(コード番号 5406 東証・大証・名証)
問合せ先 秘書広報部担当部長 安田 幸展
(TEL 03-5739-6010)

真岡市での発電所計画に係る環境アセスメントの実施について

株式会社神戸製鋼所は、栃木県真岡市においてガス火力発電所の建設を目指し、このたび、環境アセスメントの手続きを開始致します。環境アセスメント手続きの開始は3月下旬の予定で、アセスメント実施期間はおよそ3年を見込んでおります。

当社は、製鉄事業を通じて、半世紀以上に亘り自家発電所運営のノウハウを蓄積してきました。現在、加古川製鉄所（兵庫県加古川市）においては、高炉ガスを燃料に用いたガスタービン・コンバインドサイクル（以下、GTCC）発電設備を2基導入し、エネルギー効率の改善を図る工事を進めております。一方、神戸製鉄所（兵庫県神戸市）においては、発電規模140万kWの石炭火力発電所を建設し、2002年から関西電力㈱殿向けに電力卸売（IPP）事業を行なうなど、電力の安定供給にも貢献しております。

そのような経緯の中で、今回の計画は、当社真岡製造所隣接地の栃木県真岡市鬼怒ヶ丘1丁目第5工業団地内に、都市ガスを燃料としたGTCC方式の出力140万kW級（70万kW級×2基）の外販用火力発電所を建設するもので、2019年から2021年頃の稼働を目標とするものです。

建設を計画している工業団地内では、東京ガス㈱殿が都市ガスの供給幹線「茨城～栃木幹線（茨城県日立市～栃木県真岡市）」の敷設工事を進められており（2015年度完成予定）、燃料の都市ガスを安定的に調達できる環境が整備されます。また、既存の送電網への接続が比較的容易である等、ガス火力発電所立地を計画する上で優位な社会インフラが揃った地点であると考えております。

電力の販売先としては、現時点でIPP入札計画（*1,000万kW規模の高経年化火力リプレーン等）を発表されている東京電力㈱殿を想定しております。

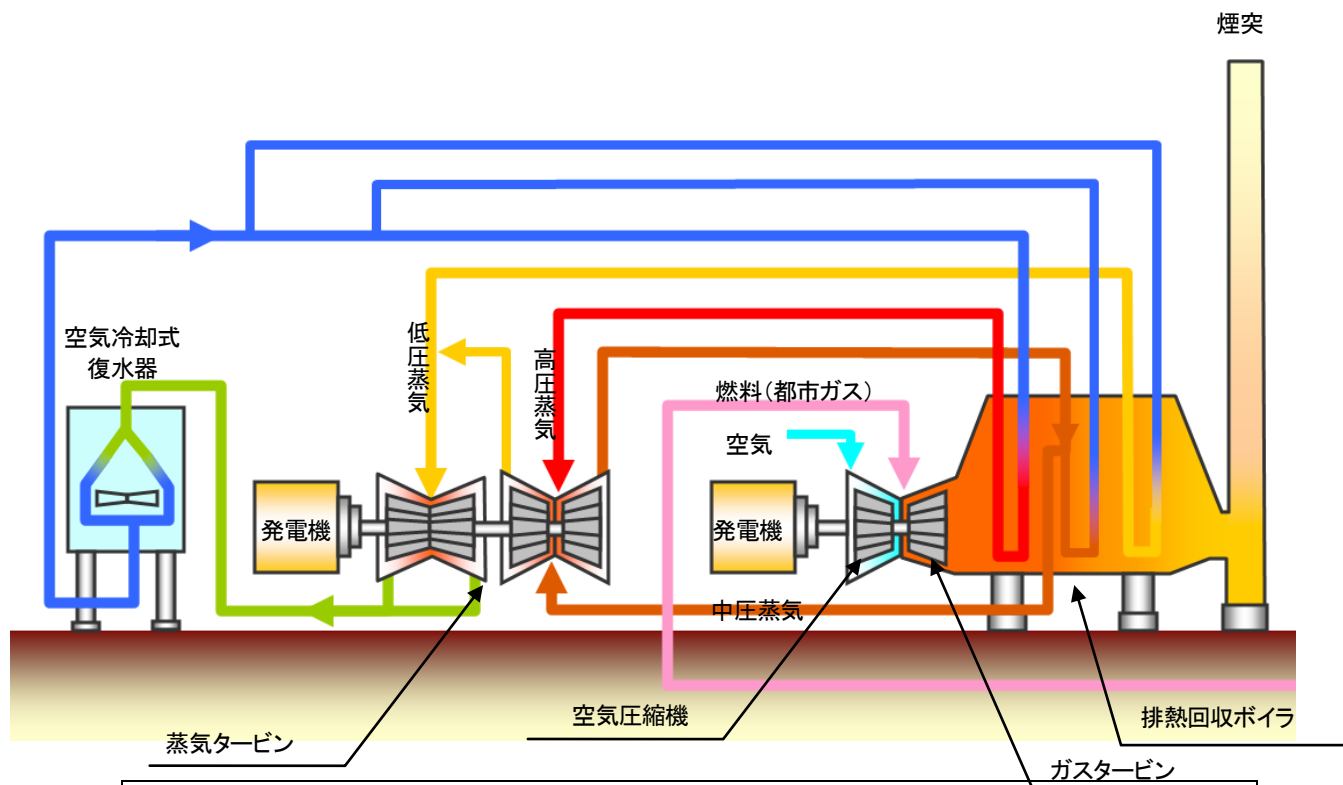
本計画の発電所は、当社の安定収益基盤確保に寄与するとともに、完成すれば我が国初の本格的な内陸型火力発電所になり、内陸立地による電源分散化や地域経済発展と言った社会的要請にも、貢献できるものと考えております。

*注：東京電力㈱が昨年 11 月 7 日に発表された「改革実施集中アクションプラン」に「高経年化火力のリプレイス等に対応した 1,000 万 kW 規模の入札募集計画を策定」と示されております。

以 上

【ご参考】

ガスタービンコンバインドサイクル発電設備の概要



【コンバインドサイクル発電方式の仕組み】

ガスタービン発電と汽力発電の長所を組み合わせた発電方式で、高温高压の燃焼ガスの膨張力によりガスタービンを回転させ発電すると同時に、ガスタービンを回転させた後の高温の排ガスをボイラに導き、蒸気を発生させ、蒸気タービンを回転させて発電する仕組み。発電効率が高く、設備がコンパクトで、レスポンス良く広範囲の出力調整が可能である。